別紙２

様式第一別紙二を次のように改める。

特定施設（大気基準適用施設）の使用の方法

| | | | |
|---|---|---|---|
| 工場又は事業場における施設番号 | | | |
| 使用状況 | １日当たりの使用時間及び月使用日数等 | 時～　　時<br>日／月 | 時～　　時<br>日／月 |
| | 季節変動 | | |
| 原料及び燃料（ダイオキシン類の発生に影響のあるものに限る。） | 種類 | | |
| | 使用割合 | | |
| | 原料又は燃料中の塩素分の成分割合（％） | | |
| | １日の使用量 | | |
| 排出ガス量（㎥／ｈ） | | 最大　　通常 | 最大　　通常 |
| 排出ガス温度（℃） | | | |
| 排出ガス中の酸素濃度（％） | | | |
| 排出ガス中のダイオキシン類の濃度（ng-TEQ／㎥） | | 最大　　通常 | 最大　　通常 |
| その他参考となるべき事項 | | | |

備考　１　廃棄物焼却炉にあっては、種類の欄には、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くずその他の廃棄物の種類を、使用割合の欄には、廃棄物の種類ごとの焼却割合を記載すること。

２　排出ガス量については、温度が零度であって圧力が１気圧の状態（以下「標準状態」という。）における量に、排出ガス中のダイオキシン類の濃度については、標準状態における排出ガス１立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。

３　ダイオキシン類の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

４　その他参考となるべき事項の欄には、排出ガスの排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出ガス量の変動の状況を記載すること。